

隠れた魅力が満載!! 美郷の歴史散歩。

美郷町には歴史ある神社仏閣が多く、それぞれに興味深い、
趣のある歴史の逸話などが残されています。
静かな美郷の名刹を訪ねてみませんか。



あまつじんじゃ あごう 御祭神:高皇産靈神(たかみむすびのかみ)
創建:白鳳乙亥4歴(675年)
※現地点への移転は年代不詳

延喜式に載る石見古来三宮

美郷町吾郷に鎮座し、古来石見三宮として延喜式神明帳にも記録される歴史ある神社。貞観9年(867年)には「正一位本座大明神」の神号を授かった。お社内には提灯が天井に並び、町の文化財である江戸時代の白馬、北前船、源平合戦図などの板絵が多数掛かっている。かつては鳥居が3基(現存1基)あり、その踏石は今も畑の中に残っている。相撲が行われていた時代もあった名残として、力石と思われる丸い岩が鳥居のそばに置かれている。



びしゃもんど う しき 御祭神:毘沙門天
創建:正和2年(1313年)
※伝えられているが記録はなし



歴史薫る疾病退散のお堂

もとは多聞寺という天台宗のお寺であったが、現在は毘沙門堂だけが堂宇として残っている。町の文化財である色彩豊かな毘沙門天像は、国の重要文化財に申請できるほど由緒ある木像。かつて旧正月には近隣からの参拝客でひしめいたと伝えられているが、現在は地元の方が整備する毘沙門公園の横に静かに佇んでおり、堂の天井には作成日不明の年代物の絵がひとますごとに描かれ、往時の賑わいを忍ばせる。



まつおやまはちまんぐう つがほんごう 御祭神:菅田別命 息長足姫命 玉依姫命
創建:伝承によれば元龜2年(1571年)

出雲に納めた御柱の地

美郷町南部の都賀本郷にある神社。延享元年(1744)に御造営された現在の出雲大社の本殿を中心で支える心御柱はこの境内から切り出された。江の川を下り稲佐の浜へと到着した際には、沖合に数十艘の舟が、浜では数千人が出迎えたという。10月の例大祭では、「伝統芸能と光の祭典」として太鼓と笛を打ち鳴らして社へと向かう「楽打ち」、夜は約3千本の竹灯笼、キャンドルに灯をともしての都神楽団による夜神楽が楽しめる。外国からの参加者もある幻想的な行事になっている。



たちたけまりねのみことじんじゃ みやうち 御祭神:建埋根命 大山祇神
創建:867年ごろ

木彫りの狛犬と平安の社

神社の棟札によると「清和天皇、貞観9年(867)正月元旦奉田立神社社殿一宇」とあり、約1200年前の創建とされる。神社の心霊は四国から雉に乗って来られたとされ、周辺地域では雉獵を禁じられた。明治40年の統廃合で小社、小祠が合祀されたが、「神霊が枕元にたたれ合併したくない、この地に留まりたい」とのお告げがあった」とか「毎晩もとの神社の森に賑やかな楽の音が聞こえる」という流言が広まった。町の重要文化財である木彫りの狛犬は1377年の奉納。



じょうどじ かすぶち 御祭神:浄土真宗
創建:1306年 徳治元年



山陰初の浄土真宗寺院

銀山街道の宿場町として栄えた小原にあるお寺であり、山陰地方における浄土真宗発祥の寺院で石見地方の拠点であったが、大内や尼子、毛利の時代に度々の戦火に包まれて移転、再建された。明治27年にも本堂その他を焼失したが、境内北側の山門は寛文9年(1632年)に再建され、文化3年(1806年)に寄進された持仏堂が残っている。勇壯で豪快、木鼻も見事なその四脚門と江の川を望む大きな本殿が印象的な寺院。

小尾山八幡宮 (都賀西)

ほそおやまはちまんぐう つがにし 御祭神:応神天皇 神功皇后 玉依姫命
創建:永禄11年(1568年) 再建



伝承の眠る神楽の社

1558~1570年の大洪水によって古文書等は消失したため創建年代は不明だが、1568年、現在の地に再建。奉納された町の文化財である鍾馗(神楽の鬼のひとつ)の面は文化2年(1805年)につくられ、一緒に収めた刀剣や面をかみ壊すという言い伝えがある。また身に危険が迫ると鞘鳴りをし、妖怪に会うと自ら走って切り落としたという伝説の“鞘鳴りの妖刀”が奥深く収められているという伝説もあるが、現存はさだかではない。神楽殿も併設され、都賀西神楽保存会、都賀西子ども神楽の拠点となっている。



さけだにひかりはちまんぐう さけだに 御祭神:菅田別命 足仲津彦命 氣長足姫命
創建:正和3年(1314年)



光伝説と逆さイチョウ

樹齢数百年の大銀杏がそびえる酒谷の八幡宮は、酒谷(光)(さけだに(ひかり))八幡宮と呼ばれ、由来はかつて夜通し光を放つ不思議な大きな石があったことから名付けられた。闇夜をなくすほど光る石に村人たちは喜んだが、一人の百姓が村人を集めて光を放つ部分を少し割り取ろうとしたところ、その光は消え失せたという。大銀杏が黄金色になる秋には、田んぼに水を張ってライトアップされ、逆さ大銀杏と逆さ紅葉が映える撮影スポットになっている。

マナーを守って楽しく鑑賞 奉納神楽鑑賞の手引き 体験!!



石見神楽の本来の姿は、地域の例祭の前夜祭としての奉納です。石見地方の秋祭りでは夜通し神楽を舞う地域もあり、老若男女が神社の舞座で毛布にくるまり、大人はお酒を飲み交わしたりしながら特別な夜を過ごします。石見神楽のルーツ・奉納神楽は、神様のためのお祭りです。マナーを守ってなかよく楽しみましょう。

1 敬神の心を忘れずに。

奉納神楽を鑑賞する前には本殿に参拝し、鎮守の神さまにご挨拶しておきます。作法はお宮によって異なりますが、石見地方のほとんどのお宮では、2礼2拍手1礼が作法となっています。



2 地元の人となかよく。

奉納神楽は地元のお祭りです。神楽がよく見える場所を独占したり、許可なくカメラをセットするなどの行動は慎みましょう。地元の人に気軽に声をかけて一緒に楽しんでください。



3 御花を打つ。

「御花」は観客が社中の舞に対し、感謝の気持ちを込めて観劇料として贈るものです。金額は気持ちといわれていますが、一般的には1家族3千円~5千円程度です。



4 リラックスして楽しむ。

奉納神楽は気を張らず、楽な姿勢で楽しみましょう。舞の最中や終了後の声かけや拍手は、舞者への賛辞であり、励みにもなります。夜の観劇になるため、防寒対策は忘れずに。

